近い将来起こりうる人口減少に立ち向かう策は

武井　正広　議員

人口減少は静かなる危機と呼ばれるように、日々の生活においては実感しづらい。しかし、減少し始めると、地域経済の低下、さらなる人口減少のスパイラルが起き、地域コミュニティや自治体の行財政運営にも大きな影響を与える。今は人口増加中の本町においても、将来的な人口減少に立ち向かう対策が必要と考える。

問　第五次開成町総合計画で将来指標とした令和6年度19，300人に向けての人口増加策は。

答　人口減少は社会経済の地方財政に大きな影響を及ぼすため、人口の年齢構成バランスを良好に保つ為の施策を進めたい。今年度スタートした総合計画後期基本計画を着実かつ丁寧に遂行する中で目標人口の達成を目指す。

問　4年前、町長2期目の就任時の人口目標は2万人でした。現在もその考えか。

2万人を目指してまちづくりを進めるということか。

答　思いとして目標は2万人である。矛盾を指摘されている気がするが、総合計画の19，300人はきちんとやる。

問　他の自治体に先駆けて人口増への施策が必要。特に子育て世代に優しい町であることが大切であり2つ提案がある。妊産婦医療費助成制度。義務教育の給食無償化について検討いただきたい。

答　学校給食法の中で給食費は原則保護者負担の方針なので総合的に考える課題。産婦検診を今年から始めた。先行する自治体の状況を把握しながら検討していく。

問　人口増加に大きな影響を及ぼす駅前通り線の早期開通を公約された3期目の任期が終える時の駅前通り線のイメージは。

答　土地区画整理事業の県の認可は来年度が目標だが、4年後には道路整備は終わらない。

駅前通り線

北部地域を「田舎モダン」でさらなる活性化を

下山千津子　議員

町は、庁舎の完成や北部地域の拠点の瀬戸屋敷周辺の整備を計画している。観光バス等の受け入れができるよう駐車場の拡大整備やふるさと道具館をリニューアルし、加工所や地場産の直売所等の整備が行われようとしている。

問　農業振興をどのように考えるか。

答　担い手の確保・育成、流通・販売の支援・営農環境の保全等、多角的な農業振興策を進める。

問　観光交流拠点づくりをどのように考えるか。

答　魅力ある観光づくりには、「そこでしか体験できない、味わえない」事業を用意することが重要と考える。特に「食」に関する農産物販売・加工品の提供等が可能となる。

問　町長自ら地元に入り、農政全般の課題解決のため、農家の皆さんの声に耳を傾け、農業政策や計画を丁寧に説明し動く事が肝要と思うが。

答　一年間が大変重要と認識している。説明会や参加して貰えるような仕組みづくりを早急にやっていく。

問　北部地域活性化協議会は、年に何回開催されたか。

答　昨年は、9月と2月に開催。今年度は、進捗状況等を報告しながら7月、8月中に説明会を考えている。協議会以外に人・農地プランの計画も実施中で、後継者の問題等の解決策を見える化していく。

問　県道の怒田開成小田原線の道路拡幅の進捗状況は。

答　県が平成30年度に測量の調査等を実施した。調査結果に基づいて道路の拡幅する線形等を県が検討しており、検討終了後、用地買収と道路を広げていく。

問　北部地域の魅力を特に南部地域の住民に対してPRしては。

答　SNS等で広告効果が高まっている今日、発信力の強い年齢層の住民を北部地域に呼び込む工夫が必要である。

北部地域の拠点である瀬戸屋敷

あじさいの花が咲く議場で
6/23 第15回 日曜議会を開催

日曜議会 傍聴者の声

どう見えた？
開成町の今と未来

平日、仕事や学校等で議会を傍聴できない方にも議会活動を知っていただくために、開成町議会では平成17年から「日曜議会」を毎年行っており、今回で15回目を迎えました。当日は議長を除く全議員（11名）が一般質問を行いました。

町内外から計70名の方が傍聴され、多数のアンケートをいただきました。ご感想の一部をご紹介します。

傍聴者に小学生がいて、日曜議会が良い機会になっていると思った。

（男性・70歳代）

せっかくの日曜議会なので、その取り組みをもっと有効に活用してほしい。

平日には来れないが、日曜だから来れるという傍聴者を増やす努力をするべき。

（男性・50歳代）

初めて議会を傍聴したが、よい機会になった。また参加してみたい。議場のあじさいの花も綺麗で良かったと思う。

（女性・40歳代）

一般質問の時間が30分では深く議論できず、短いのではないかと思った。

（女性・70歳代）

議会への多くのご意見・ご感想、ありがとうございました。
今後の議会活動にできる限り反映してまいります。

開成町議会

※本会議の詳細質疑が掲載されている会議録は、議会のホームページに掲載しております。